

メロン果実腐敗症を引き起こす

Pantoea ananatis のメロン植物体上での分布

安達理恵・矢野和孝・竹内繁治

Distribution of *Pantoea ananatis* on melon plants

Rie ADACHI, Kazutaka YANO and Shigeharu TAKEUCHI

要 約

高知県内のメロン産地では、*Pantoea ananatis* による果実腐敗病が散発的に発生している。本症の発生実態を明らかにするために、収穫された果実について *P. ananatis* の分布を調査したところ、腐敗した果実からだけでなく、腐敗がみられない果実からも *P. ananatis* が分離される場合があった。また、農家圃場で調査したところ、果実が腐敗した株では果実だけでなく、根、地際、結果枝と主枝の分岐部、果梗枝、茎頂部からも *P. ananatis* が分離され、腐敗部以外にも本菌が分布していることが明らかとなった。

農家圃場において、メロンの交配期の調査で植物体内から *P. ananatis* が分離される場合があり、分離率が高い圃場では、収穫期に腐敗果が発生した。収穫期の調査で果実腐敗が発生したメロンの茎、または葉から必ず本菌が分離された。一方、果実腐敗が発生していない個体の中に茎から本菌が分離されるものがあったが、果実内部からは分離されなかった。

P. ananatis の植物体上での生息状況を調査したところ、腐敗果実から採取した種子の内部から本菌が分離された。また、本菌は汚染播種床および汚染種子を介して植物体内部に侵入した。

キーワード メロン, *Pantoea ananatis*, 果実腐敗症, 分布, 伝染環